

犬山市長 田 中 志 典



立山町長 舟 橋 貴 之



平成25年は、立山町制施行60周年と犬山市・立山町姉妹都市提携40周年という、記念すべき節目の年でありました。

とりわけ、40周年を記念して実施された両市町の交流事業は、継続・新規を合わせてかなりの数になりました。また、立山町内に、アンテナショップを開設していただきましたが、犬山の物産品も扱って下さっています。平成26年度から、両市町の間で職員同士の人事交流も始まりました。行政間も民間も、これまで以上の交流が期待されますが、中身の濃い関係を築いていきたいと思っています。

さて、立山町の魅力は、何と言っても大自然の美しさです。雄大な自然は、日本のみならず世界に誇る山岳観光地であり、世界文化遺産登録に向けた取り組みもいつか実を結ぶことでしょう。

昨年6月、立山アルペンヒルクライムが開催されましたが、私は大会を目の当たりにし感動いたしました。立山黒部アルペンルートを活用した催事は、工夫すれば様々な大会が開催できると、その可能性を強く感じました。

間もなく北陸新幹線が開業します。立山町にとって大きなチャンスです。さらなる飛躍を心からお祈り申し上げます。

平成26年3月吉日

昭和48年10月16日に、犬山城天守閣と立山室堂平にて同時に姉妹都市提携を調印してから40周年の節目を迎えました。これまでの友好交流にご尽力を賜りました両市町の関係団体をはじめ、住民の皆様にご心より感謝申し上げます。

40年前、犬山駅が立山と名古屋を直通で結ぶ名古屋鉄道「北アルプス号」の停車駅となったことをきっかけとして、姉妹都市提携を結ぶこととなりました。この北アルプス号が立山連峰を背景にして颯爽と走り抜けていた当時の光景を、今でも町民の多くが覚えております。

これまでの間、小学生のホームステイをはじめ、教育、スポーツ、観光などの様々な分野において定期的に交流が展開され、さらに、安心の裏付けとなる災害時における相互支援協定も結び、いざという時に互いに支え合える存在として、堅牢な信頼関係が築かれてまいりました。また、平成26年度には、新たに職員人事交流がスタートすることになり有難く思っております。

この40年の間に「北アルプス号」は任務を終えましたが、東海北陸自動車道の完成により、両市町の距離は短くなりました。この度の節目を機に、人（ひと）の交流による「絆」に加え、経済面においても効果が発揮できるよう、継続的に協議をさせていただきたいと存じます。

おわりに、両市町が未来に向かって発展し、友情がますます深化することをご祈念申し上げ、姉妹都市提携40周年にあたっての挨拶とさせていただきます。

平成26年3月吉日